

国際監査・保証基準審議会 御中

公益社団法人 日本証券アナリスト協会
企業会計研究会

「公共の利益を踏まえた監査品質の向上 —職業的懐疑心、品質管理及びグループ監査—」について

日本証券アナリスト協会の企業会計研究会は、2015年12月に公表されたコメント募集文書「公共の利益を踏まえた監査品質の向上」（以下 ITC）について、意見書を提出する。当協会はアナリスト教育試験制度を運営する公益社団法人で、約26,000名の検定会員を擁する。企業会計研究会は当協会の常設委員会で、アナリスト、ポートフォリオマネジャー、公認会計士、学識経験者を含む15名の委員で構成され、国際会計基準審議会（以下 IASB）や企業会計基準委員会（以下 ASBJ）の公開草案などに対して意見を表明すると共に、ASBJや金融庁などと意見交換をしている。

記

国際監査・保証基準審議会（以下 IAASB）が ITC において、会計監査人等を対象とした監査基準に関する詳細かつ専門的な説明及び質問項目とは別に、財務諸表利用者などを対象にした概括的な説明と質問項目を設定したことに感謝する。

我が国においても会計不祥事などを背景に、「職業的懐疑心」「品質管理」「グループ監査」という ITC の3つのトピックへの関心が高まっている。会計不祥事の第一義的な責任が被監査会社の経営者や経理担当者にあることを理解しながらも、「会計監査人がその役割を十分に果たしていないのではないか」という疑義を抱く財務諸表利用者も居る状況であり、ITC の公表は時宜を得ている。

以下、いくつかの個別質問に絞り、財務諸表利用者の立場から我々の意見を述べる。

G1. 表1 において、（監査の）公共の利益に最も関連する論点であり、従って、職業的懐疑心、品質管理及びグループ監査のプロジェクトにおいて検討されるべきと IAASB が考えているものについて説明している。以下についてのコメントを募集する。

(a) 表1に記載した、公共の利益に関する論点は、これらの3つのトピックに関する IAASB の作業に関連すると考えるか？

我々は、表1に示された論点が3つのトピックスに関する IAASB の作業に関連すると考えている。特に、会計監査人が被監査会社から報酬をもらうという構造的な利益相反を考慮すると、「監査人の適切な精神的独立性を保持した懐疑的な姿勢」は極めて重要である。各監査法人がリーダーシップを発揮して、監査の品質を重視する文化の醸成、職業的懐疑心の

発揮、品質の向上に連動した報酬体系の導入に向けた対策を講じていくべきであろう。その意味では、「監査事務所レベルにおける積極的な品質マネジメントの奨励」も非常に重要であろう。

また、会計監査人の監査の品質がどのように保たれているかが財務諸表利用者にはよく解らないため、監査自体がブラックボックス化している様な印象を受けているのが実状である。まずは、会計上の見積りや収益認識等の監査人の重要な判断の文書化の徹底を通じて、「監査品質の透明性」の向上が図られていくことを期待している。

QC1. IAASBは、第51-66 項に記載したとおり、品質マネジメント・アプローチ (QMA) を組込んだISQC1の大幅な改訂を支持している。

(a) QMAの利用は監査品質の向上に役立つと考えるか？ その理由は何か？ このアプローチを進めるためにISQC1の構成を見直す場合、どのような課題があると考えるか？

ITC では監査報酬について言及していないが、我々は監査品質を反映した報酬体系へ向けた検討も重要と考えている。

QC2. IAASBは、監査品質に関する個々の論点に対処するための品質管理基準の改訂も検討している（第67-83項参照）。

(a) 第68-83項で記述したアクションは、監査事務所レベル及び監査業務レベルでの監査品質を向上させるか？ 向上させない場合、その理由は何か？

第 72-74 項にある監査法人の透明性報告書では、監査品質の向上や会計監査人の職業的懐疑心の発揮に向けて、監査法人がどのように継続的に取り組んでいるかが、財務諸表利用者にも理解できるように開示する必要があると考えている。

GA1. IAASBは、グループ監査に関する論点に対応するために、ISA600（及び必要に応じてその他のISA）を改訂する予定である。

(c) IAASBは、監査報告書において他の監査人について記載することについてさらに検討すべきか？ するべきと考える場合、それが監査人の作業にどのような影響を及ぼすか？

主要子会社の監査を担当した他の監査人の状況（例えば、名称、売上高、総資産等の財務数値）についても、監査報告書又は開示書類に記載することを検討すべきである。QC2 で挙げた透明性報告書等での開示の充実と併せて、財務諸表利用者のグループ監査における監査品質への理解が深まることが期待される。

以 上